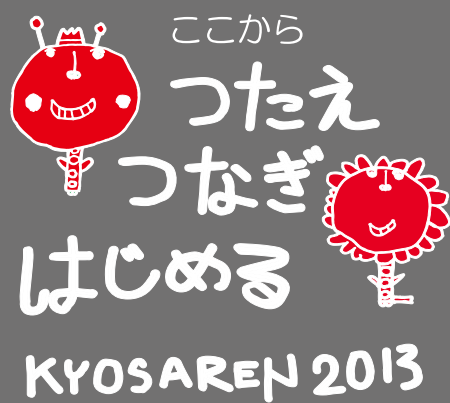


きょうされん

第36回全国大会 in 東北・ふくしま

たいおす
TIMES vol.3USTREAM 配信してますよ。
ユーストリーム

http://www.ustream.tv/channel/kyousaren-zenkokutakai-2013

ツイッター
http://twitter.com/2013_fukushima
(@2013_fukushima)がんばっぺ！
東北！

番組配信スケジュール

2013 年 9 月 22 日（日曜日）

09:00 ~ 12:00 利用者フォーラム 「つながる」

13:00 ~ 14:50 一般公開特別シンポジウム

15:00 ~ 15:30 まとめ・閉会式

＜特別協賛＞

FUJI XEROX



富士ゼロックス福島株式会社

二日目の今日は、各会場に分かれた分科会、利用者フォーラムが行われます。ここから「つたえつなぎはじめる」を大会テーマとして、一人ひとりの体験や思いを通して、みんなの気持ちを共有し、みんなで考えます。

●WELCOME ふくしま②

この大会を、東北で開催する意味。

2013 きょうされん全国大会
副実行委員長
佐々木直人さん（岩手支部）

きょうされん第36回全国大会が本年9月21（土）22日（日）、福島県郡山市磐梯熱海温泉にて開催されます。既にお知らせしておりますように平成23年3月11日の東日本大震災では地震・津波そして原発事故という未曾有の被害を受けました。その時、きょうされんは震災直後から全国規模で特に障害関係施設や障害を持つ人びとの安否確認と救援活動に物資や人的支援を行って来ました。大震災から2年半余を経過しましたが、この支援活動は今日も継続されています。

今年第36回全国大会開催にあたり、全国からの支援に対しての感謝の気持ちを表すことと、被災の状況を全国の皆さんに知って頂き、今後の災害への備えを考え合うという趣旨から東北で開催し、復興、新生に向けた大会にしようということになりました。これまでの大会は各県支部が主催してきましたが、今回は東北6県6支部が共催して開催することにしました。

皆さんからのご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

利用者フォーラム



つながる

“つながりは、安心”、“つながりは、力”、“つながりは、勇気”をテーマに利用者フォーラム“つながる”が始まりました。

第一部はドキュメンタリー映画の上映と“3.11あの時のことを聞いてみよう”です。災害時、障がいを持つ人がどのような状況になったのか、映像で伝えられました。質疑応答では、通院・服薬で困ったことは何ですか？との質問に、避難先で薬がなくなりタクシーで通院したが、お金がなくなり、しばらく薬を飲むことができなかった、との回答がありました。障がいがある人たちが、災害が発生した時、命を守ることが難しいことがわかりました。

第二部“わたしたちをはげましてくれた歌を歌おう”が開幕しました。ベンチャラーズさんの演奏で、

『負けないで』『翼をください』『風が吹いている』など6曲を元気よく、みんなで楽しく歌いました。歌はみんなの心の支えになっているようです。

第三部の、いちごみるくさんによる“元気になるお話をしよう”では、注文の多い料理店、おおきなカブ、ラーメン体操で盛り上がりました。

利用者フォーラム“つながる”は、安心・力・勇気をもらい大盛況で終了しました。



●分科会 1



最初に 宮城県の「きらら女川」の松原さんからの報告です。津波被害に直面し、一時は「もうだめ」と女川の隣町の事業所へ仲間を受け入れていただき、出身地の鳥取へ帰って再起を図り、被災後3カ月目には障がいのある仲間と事業を開始しました。しかし、被災地の仲間は働きたいのに働けない中、「働く」ことの意味を再認識することになりました。現在では、きらら女川かりんとう工場の竣工にこぎつけました。

次に福島県「南相馬ファクトリー」の佐藤さんからは、原発事故により市民の大半が避難した状況で施設を再開し、カンパッチの製造販売にヒマワリの種を添えて、全国から種を送り返してもらい油を採るプロジェクトで、県内の福祉作業所と連携し「ファクトリー」を立ち上げ、全国と繋がりを組みました。原発事故も地域の復興も危機的だからこそ、ブログやフリーペーパーで発信し続けるとのこと。



最後は岩手県陸前高田市の「あすなろホーム」西條さんからの報告です。高台にあった施設は、津波を逃れた方々の避難所になりましたが、笑顔を失った施設利用者が作業を再開すると笑顔を取り戻し、通所再開につながったこと、家族が次に向かって片づけや手続き、安否確認などができる時間が確保できるためにも通所施設が必要であったことが報告されました。

それぞれ、震災後の困難さを様々な連携やネットワークの構築で乗り越えようと事業所を再開してきました。それは「働く」ことを通してより良く生きることを諦めない姿でした。

●分科会 2

住まう



“住まう”をテーマにした分科会2は、福島の西みよ子さん、宮城の熊井睦子さん、岩手の栗田誠さんのお話を聞きながら進みました。

それぞれの立場と地域は違いますが、共通しているのは、津波で海岸部が壊滅的な被害を受け、ライフラインが寸断された状態で、障がいの有無にかかわらず、みんな生き延びようと必死だったこと。そこでどんな支援が必要なのか？避難所や仮設住宅でも生活にくさを抱える人たち。そんな中、全国の障がい者の団体が手を差し伸べてくれて、被災地の障がいを持つ人たちの生活をつないでくれたのでした。



もう一度、同じような災害が起きた時に、弱い立場の人の生活を守れるよう、市町村などの行政との関係や、地域の人たちのつながりを大事にすることを、普段の生活から考えなくてはいけないのかもしれない。インクルーシブな社会を実現する街づくりの必要性の訴えは教訓的でした。

●分科会 3



分科会3は「支えあう」というテーマで開かれました。障がいのある人は、逃げられないと諦めた人や迷惑をかけてしまうと遠慮した人たちがいました。

震災が起きた時、個人情報保護の壁は、障がいのある人にどう影響したか。福島のシンポジストから、震災そして原発事故により、医療が崩壊し、福島から県外への避難者は約6万人、その後の課題への取り組みが語られました。人や医療とつながった時に実感できた安心や元気が語られ、みんなで考えました。

これから、福祉避難所のあり方、障がい者施設の災害時の役割、ボランティアのあり方など、どうあるべきなのかを考えられるいい機会となりました。

支えあう



2011. ふくしまで起きた事

東日本大震災から、2年半以上が経過しました。
その当時、福島県の南相馬周辺で起きた事を、まとめてみました。
復興に向かっている人もいますが、福島では、避難生活をしている人が、今も約15万人います。

一番大切なことは、
いのちを守ること

津波

3月

避難生活

3月11日 地震発生(マグニチュード9.0)
3月12日 福島第一原発 全電源喪失
原発10キロ圏内に避難指示
福島第一原発 1号機 水素爆発
原発20キロ圏内に避難指示
3月14日 福島第一原発3号機 水素爆発
3月15日 福島第一原発4号機 水素爆発
「警戒区域」20キロ圏内
「屋内退避」30キロ圏内
3月16日 南相馬市長が全市民に「避難勧告」
3月17日～20日
バスが用意され、行き先不明の避難
3月19日
JDF被災地障がい支援センターふくしま設立

4月

4月1日 あさがお開所
4月5日～4月7日 避難所への訪問調査
4月16日 ビーンズ開所
4月 22日 30キロ圏内が屋内退避から
「緊急時避難準備区域」に
JDF「ぴーなっつ」に南相馬市の拠点になる
4月 22日 ぴーなっつ開所
4月30日～9月 南相馬市の在宅訪問調査

原発事故

5月

5月10日 ひばりワークセンター再開

6月

6月10日 ほっと悠 再開
6月13日 えんどう豆 再開

8月

施設再開

8月 1日 ふたばの里再開(いわき市で開所)
8月20日 ひばりワークセンター再開



気づいたのは、
ふつうの生活がしあわせって事

JDF被災地障がい者
支援センターふくしま

震災から一週間後に、障がい者の支援のために
障害者団体が集まり、”JDF被災地障がい者支援
センターふくしま”が立ち上がる。参加団体の数
は20を超え、民間による総合的な障害者への支援
体制ができた。

物流が滞る中、南相馬といわきに支援物資の提
供を行った。また被災地から避難した障害者の追
跡調査を行い、その後、市の委託を受けて、南相
馬の障害者の訪問調査を行った。また、支援員が
不足している福祉事業所に、全国各地からボラン
ティアとして入り、現場を支えた。

海岸線から4キロほどまで、津波が押し寄せ、海に近い
集落は住宅に基礎だけを残すだけでした。その後、消
防と警察、自衛隊の人が、被災した現場に入り、生存者
の救出、遺体の捜索とがれきの片付けを行いました。



ありがとう！ たくさんの作品

全国大会を記念して、大会のテーマの「ここ
から つたえ・つなぎ・はじめる」の書を送っ
て頂きました。書は会場に飾ります。事業所・
団体名(平成25年4月23日現在)は以下の通
りです。ご協力いただいた皆さん、ありがとう
ございました。

ご協力頂いた福祉事業所の皆さん(順不同)
・NPO法人きらり(鉏路市)・有持直樹(みとみ学園)
(会津若松市)・佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮(佐
賀県)・ひまわり会すてっぷ(岩手県)・サポートセンター
あすなろ(沖縄県)・リサイクル洗びんセンター(東
京都)・杉の木園(秋田市山内)・はるの里(京都府京
都市)・佐久間桃子<あいえるの会>(福島県)・いかり
共同作業所(兵庫県)・平岡拓郎<障害者支援施設とさ
>(高知県)土佐市・小名浜高等学校(福島県)・障害
者支援事業所いきいき(滋賀県)・つばさ共同作業所(埼
玉県)・ひだまり(兵庫県)・多機能型つくしんぼ(兵
庫県)・あかしあ労働福祉センター(北海道)・きょう
されん埼玉支部 仲間部会「WA会(わかい)」(埼玉県)
ほかの皆さん。



きょうされんグッズ・コンクール発表！

はたらく仲間に好評の第5回グッズデザイン
コンクールの入選作30点が、大会中、ユラッ
クス熱海2階の会議室前の通路に展示されてい
ます。コンクールには、全国の211カ所の福
祉作業所から1634点の作品が集まりました。
個性豊かな力強い表現がステキです。是非、
ご覧になってくださいね。



9月21日、ホテル華の湯の交流会1「よう
こそ東北へ」の会場で、コンクールの入賞者
が表彰されました。28名の方が出席され、皆
さん、うれしそうでした。来年は、皆さんも
コンクールの応募してみましょう。



畑本貴紀(はたもとたかき)さんは、パステル
で「電車」の絵を描きました。畑本さんは秋田県
の五輪坂ひなげしの里という施設で働いていま
す。畑本さんは、「自分の描いた絵が、素敵なデ
ザインになり、バックになった事がうれしいで
す。」と話しました。



福島の名物
ちょっと紹介(3) 喜多方ラーメン

福島県の喜多方市は、ラーメンで有名です。喜多方
ラーメンは、昭和初期に、源来軒というラーメン屋台が
始まりとされ、「喜多方ラーメン発祥の店」として、全国
からラーメンマニアが訪れる人気スポットです。喜多方
市周辺に120軒ほどのラーメン店があります。醤油ベ
ースのスープが特徴で、お土産物のラーメンは、人気の
商品です。

ぼくら、とうほく応援隊！

ユウスケくん(北海道)

北海道の東、別海あるNPO法人スワンの
家のユウスケくんから、大会マスコットのモ
ペット(人形)が、福島の事務局に届きました。
みんな、大感激しました。デザインしたくる
みさんも大喜びです。料理と工作が好きなユ
ウスケ君。10年間、クッキーなどの仕事をし
ているそうです。



松川さん(大分)

きょうされん、JDFの活動を通して南相馬へ支援
に入った「べっふ優ゆう」の松川さんは、大分支部
の方です。3度も南相馬に支援に来て下さいました。
テレビや新聞だけでなく、自分の目で見えて感じる
ことが出来て本当によかったそうです。えんどう豆
に支援に入られましたが、作業所の雰囲気がとても
暖かく、仕事と楽しさの両方ある所に感心され、南
相馬のなかまや職員の方達と会えるのが楽しみだと
言っていました。また、会いましょう。



牛島さん(長崎)

牛島さんは、長崎から、なんと8回も福
島に支援に来て下さっています(上の段の
左から3番目が、牛島さん)。震災後、原爆
の被爆地に住む者として、何かできないか
と考え支援を続けてきたそうです。福島の
仲間とも顔なじみとなり、仲良しになりました。
これからも、気持ちがつながっている事
をお互いに実感していくことでしょう。
本当にありがとうございます。

